

陸前高田グローバルキャンパス Rikuzentakata Global Campus



陸前高田グローバルキャンパス（RTGC）は

岩手大学と立教大学が陸前高田市の支援を受け、共同運営する交流活動拠点です。

国立大学と私立大学による共同運営は全国でも珍しい研究者・学生だけでなく一般市民も利用可能で、三陸沿岸での研究活動等の拠点としてだけでなく、様々な人々の交流の拠点として設置

東日本大震災の被災地として、震災・復興の教訓を世界に発信する拠点となることを目指す

RTGC設置の経緯は

端緒は陸前高田市、岩手大学と立教大学による協定

2016年1月19日

3者による相互協力と連携に関する協定締結

2016年3月

陸前高田市が「まち・ひと・しごと総合戦略」策定

基本目標 陸前高田への新たな人の流れを創造し、「思民」の
集うまちをつくる

施策の1つとして、

小中学校の空き校舎を活用した市民と学生らの交流活動拠点の設置

<具体的な施策>
○小中学校の空き校舎を活用した市民と学生らの交流活動拠点の設置

陸前高田市にある小中学校の空き校舎を利用し、県内外の大学生・研究者が研究活動やボランティア活動を行う機会創出の整備を進めます。
その他にも、陸前高田市にゆかりのある企業による新人研修・ボランティア研修の受け入れに貢献して取り組むなど、地域に根差した企業や教育機関との連携の促進により、交流人口の拡大をめざします。

重要業績評価指標(KPI): 拠点施設の利用者数
0人/平成28年1月時点 → 概へ5,000人/5年間
※民間実証の考え方、次年度調査準備のロケハンを実施に注力。



高田東中学校移転に伴う空校舎
(旧米崎中学校)



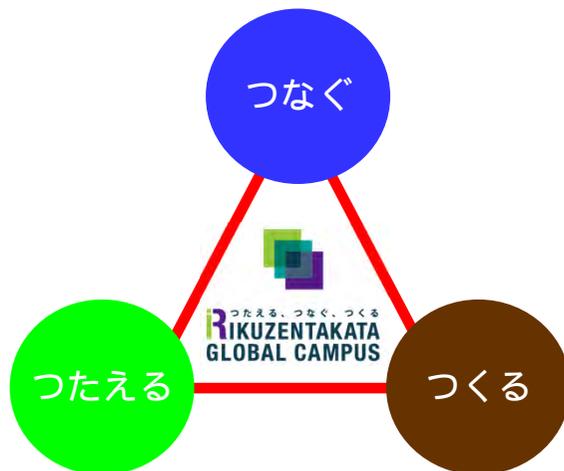
RTGCの事業コンセプトは

学びを通して「つなぐ」、「つたえる」、「つくる」

つなぐ : 様々な主体(人・組織)を「つなぐ」

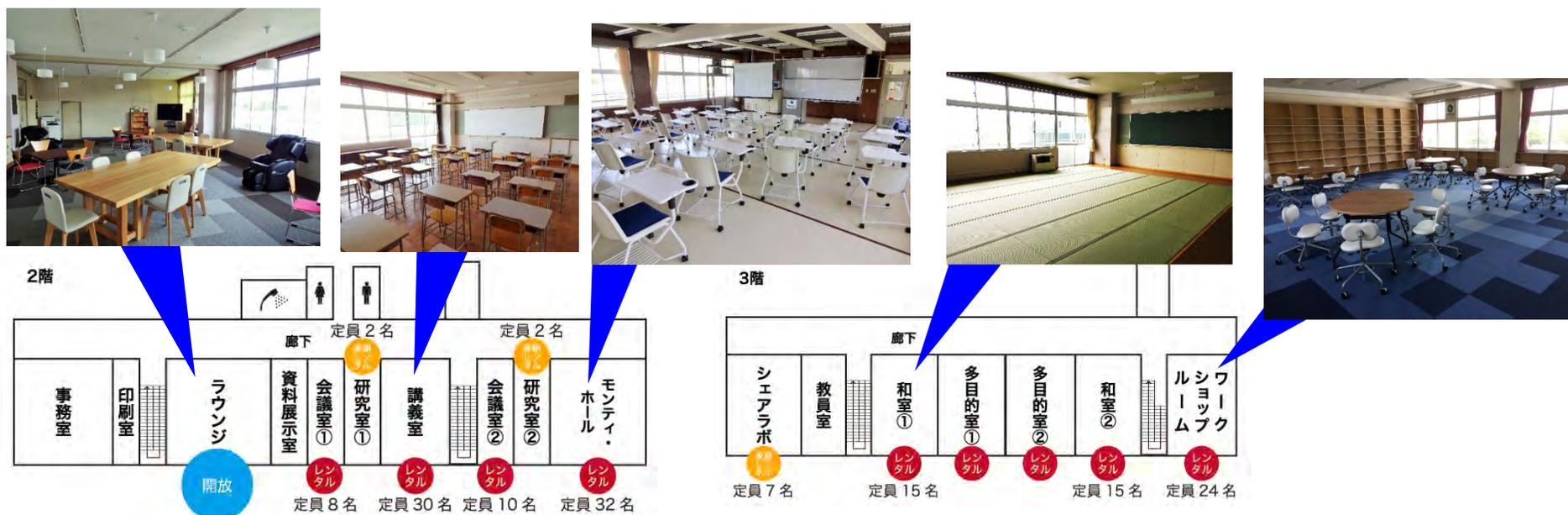
つたえる : 震災やその後の復興・まちづくりで得た
教訓を可視化し、教育プログラムとして
「つたえる」

つくる : 人々の新たな交流を「つくり」、そこから
新たな価値を「つくる」
新たな社会を「つくる」



様々な主体を「つなぐ」ための取組

施設貸出やラウンジ開放により、様々な人がRTGCに集い、これまで関わりのなかった人々をつなげることを目指しています。また、利用状況を公開し、誰でも、今、RTGCで何が行われているのか知ることができ、新たな交流が生まれる可能性を広げています。



震災や復興の教訓を「つたえる」ための取組

発災前、発災直後、復興過程の画像や映像等を収集し、 アーカイブ化

自然災害や危機管理、コミュニティ形成など様々な研究の資料として活用できるように整備します。 データによる教訓の発信

自治体や企業など対象別の災害対策・危機管理プログラムの開講

岩手大、立教大のほか様々な主体と共同で実施し、災害対策本部用システムの使用方法や避難所運営体験、発災当時の市職員・企業経営者の経験に基づく危機対応能力を養成します。

人による教訓の発信

人々の交流を「つくる」ための取組

市民との交流イベントの実施

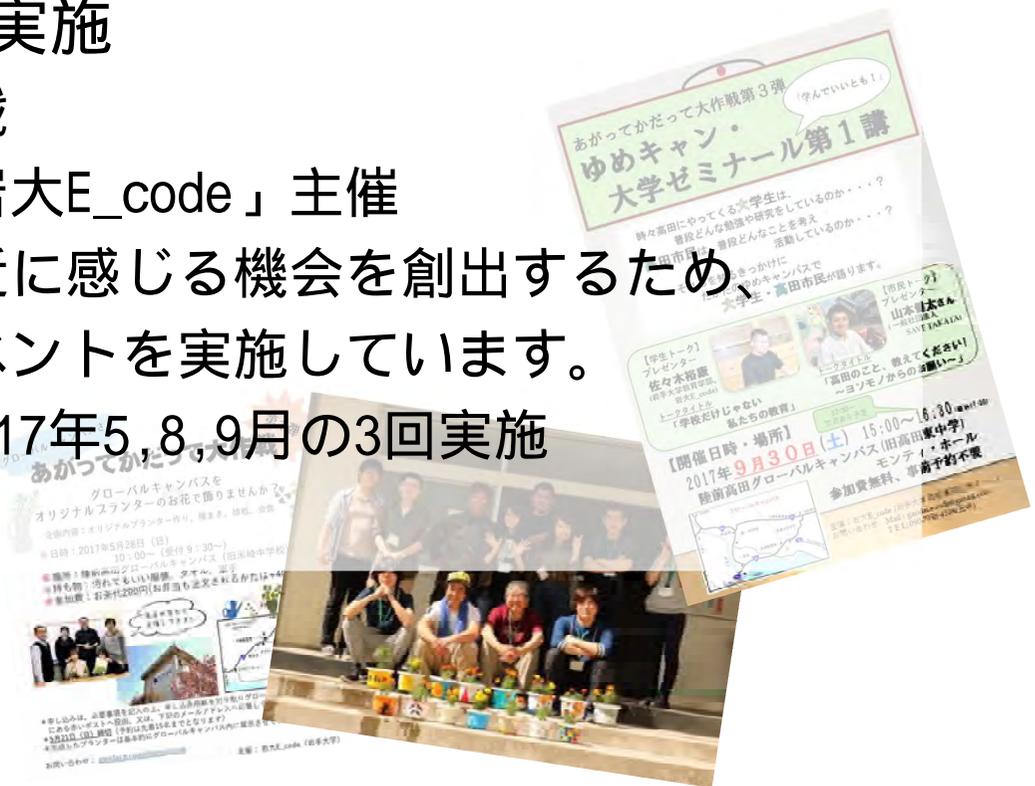
あがってかだって大作戦

岩手大学の学生団体「岩大E_code」主催

市民の方々がRTGCを身近に感じる機会を創出するため、市民と大学生の交流イベントを実施しています。

現在 まで、2017年5, 8, 9月の3回実施

2017年10月現在



「つなぐ」「つたえる」「つくる」取組

陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム

2017年1月に、RTGC開設のイベントとして初めて開催。

国内外17大学から学生・研究者が参加し、学生によるボランティア活動のほか、住民の健康・生活に関する研究、コミュニティ再生、なりわい再生に関する研究、陸前高田での取組を通じた学生教育プログラムなどについて報告が行われた。市民も多数参加し、活発な質疑応答が行われました。

大学同士、また、市民と大学の交流で新たな復興の取組が生まれることが期待されます。

今年度は2018年3月3,4日にRTGCで開催予定で、大学だけでなく、地元の団体等による発表の場を設け、交流の輪が更に大きくなるよう準備を進めています。



お問い合わせ：陸前高田グローバルキャンパス事務室
TEL：0192-47-3901 FAX：0192-53-1901
所在地：岩手県陸前高田市米崎町字神田113番地10
Mail：contact@rtgc.jp



陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム 2018

3月3日(SAT) ▶ 4日(SUN)

@陸前高田グローバルキャンパス

陸前高田をはじめ、気仙地域にゆかりのある大学の学生・教員のほか、陸前高田市内の団体による取組発表、また、気仙地域の中学生・高校生が地元への想いを語る「ジャムセッション」を行いますので、ふるってご参加ください。

[プログラム]

▶ 3月3日(土) (受付開始 12:30)

13:00 オープニング

13:35 学生・研究者・市内団体による取組発表

17:30 1日目終了

18:30 交流会 (会場: キャピタルホテル 1000)

▶ 3月4日(日) (受付開始 8:30)

9:00 気仙地区中高生によるジャムセッション

13:15 学生・研究者等による取組発表

パネルディスカッション「三陸の園芸振興に向けて」

16:00 クロージング

交流会への参加ご希望の方は
お問合せ先へご連絡ください

会費: 一般 4,000 円

学生 2,500 円

一味違った交流会にできれば
と考えていますので市民の方も
ぜひご参加ください!

■会場

陸前高田グローバルキャンパス モンティ・ホール他

■対象

どなたでも参加できます。(参加費・事前申込不要)

■お願い

駐車場に限りがありますので、公共交通機関又は
乗り合いでご来場願います。

■お問合せ・連絡先

陸前高田グローバルキャンパス

大学シンポジウム 2018 実行委員会

rtgc@iwate-u.ac.jp TEL. 019-621-6624



陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム 2018

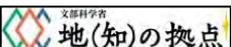
日 時：2018（平成30）年3月3日（土）13:00-17:30（受付開始：12:30）

4日（日）9:00-16:00（受付開始：8:30）

会 場：陸前高田グローバルキャンパス

主 催：陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム実行委員会

陸前高田グローバルキャンパス

共 催：ふるさといわて創造協議会  地(知)の拠点

後 援：陸前高田市、陸前高田市教育委員会、復興庁

タイムテーブル

日 時		内 容	会 場 数字は案内図の番号
3 日	12:30	受付開始	
	13:00-13:15	オープニング	モンティ・ホール
	13:15-13:35	陸前高田グローバルキャンパスの取組について	
	13:35-14:35	取組発表（学生発表）	
		休憩	
	14:50-16:00	ポスターセッション	シェアラボ
		休憩	
	16:10-17:30	取組発表（市内団体等の活動） （教育・研究活動）	モンティ・ホール ワークショップルーム
4 日	8:30	受付開始	
	9:00-12:00	気仙地区中高生と大学生によるジャムセッション「陸前高田そして気仙の未来を語る」	モンティ・ホール
		休憩	
	13:15-14:35	取組発表（教育活動） パネルディスカッション 「三陸の園芸振興に向けて」	モンティ・ホール ワークショップルーム
		休憩	
	14:45-15:45	取組発表（学生発表）	モンティ・ホール
15:45-16:00	クロージング		

会場案内図

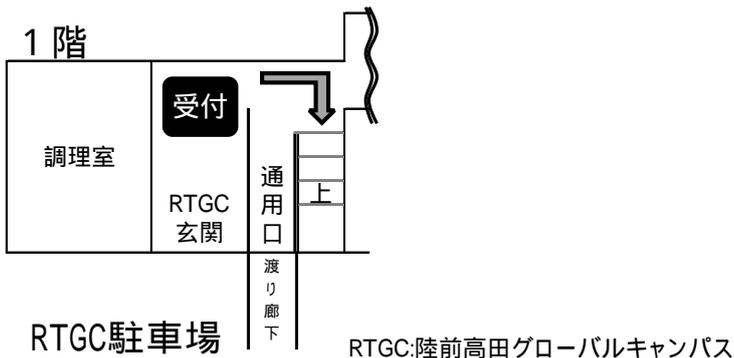
3階



2階



1階



ご来場の皆様へ（お願い）

- 1階は機械警備を行っております。玄関と最寄りの階段以外は立ち入らないでください。
- 2階ラウンジ以外での飲食はご遠慮ください。
コインコピー機、飲み物の自動販売機はラウンジに設置していますので、ご利用ください。
- 館内無線 LAN の利用方法は、ラウンジでご確認ください。
- 近隣への買い物等には電動自転車をご利用ください。利用をご希望の方は、事務室にご相談ください。
- 記録及び報告資料用に会場の様子を写真撮影します。当該写真は、後日、ホームページ等で公開する場合がありますので、ご了承願います。

陸前高田グローバルキャンパス

大学シンポジウム 2018 開催にあたり

この度は、「陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム 2018」にご参加いただきまして、ありがとうございます。また、開催にあたり、多大なるご支援をいただきました陸前高田市には深謝申し上げます。

東日本大震災から7年が経とうとしていますが、陸前高田市を始めとする被災地では、多くの大学が復興に向けて様々な活動を続けています。また、そこに住む方々も、自分たちの手で地域を盛り上げようと日々取り組まれています。

今回の本シンポジウムでは、大学だけでなく地域の方々にも取組をご報告いただき、互いをよく知ることによって、大学と地域の方々と共に活動するきっかけとなったり、これまでにない新たな取組が生まれたりするきっかけにしていただきたいと考えております。皆さまにおかれましては、立場を超えて互いに意見を交わし、交流を深めていただきたいと思います。

また、今回は気仙地域の中学生、高校生によるジャムセッションや陸前高田市の園芸農家の方や研究者によるパネルディスカッションを行います。

ジャムセッションでは、地元中高生の地域への想いを聞き、彼らが「ここで頑張ろう」と思える社会をどう作っていくのか、彼らと共に考える機会に、また、パネルディスカッションでは、園芸作物に関する現状や課題、新たな取組を紹介し、三陸地域の農業振興の一助になればと考えておりますので、奮ってご参加願います。

最後に、「陸前高田グローバルキャンパス(愛称:たかたのゆめキャンパス)」を様々な交流の場としてご活用いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

陸前高田グローバルキャンパス
大学シンポジウム実行委員会

発表スケジュール【3日】

13:35-14:35 取組発表（学生発表）@モンティ・ホール（案内図）

発表タイトル	氏名	所属
何年先も陸前高田と交流する若者を増やす	猿田悦子	若興人の家
岩手大学大学院生による沿岸支援研修の実践報告	山本麻友美ほか	岩手大学総合科学研究科ほか
陸前高田市の放課後児童クラブにおける遊びの変化	宮本妃菜	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科

14:50-16:00 ポスター発表@シェアラボ（案内図）

	発表タイトル	氏名	所属
1	青山学院大学ボランティアセンターRoote 陸前高田プログラム	柳田泰樹ほか	青山学院大学ボランティアセンターRoote
2	岩手大学大学院生による沿岸支援研修の実践報告	山本麻友美ほか	岩手大学大学院総合科学研究科
3	地域に/を学ぶ子どもの可能性 -環境フィールドワークを深める哲学対話の実践を通して-	皆川朋生ほか	立教大学大学院文学研究科ほか
4	陸前高田市の放課後児童クラブにおける遊びの変化	宮本妃菜	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
5	カウンセリングにおける震災ストレスの潜在性について	佐々木 誠	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構
6	津波被災水田における電磁探査による電気伝導度分布の測定	高橋亮祐ほか	岩手大学農学部
7	津波被災水田における電気探査による電気伝導度分布の測定	笹森洋一ほか	岩手大学農学部
8	ドローン搭載のマルチスペクトルセンサによる津波被災水田におけるイネの生育状況モニタリング	原科幸爾ほか	岩手大学農学部ほか
9	陸前高田市小友地区の農業排水による物質負荷量の推定	濱上邦彦ほか	岩手大学農学部ほか
10	地盤の圧密沈下実測データに基づいた予測とその高精度化	中村哉仁ほか	岩手大学大学院総合科学研究科ほか
11	減圧マイクロ波処理によるトマト加工技術の開発	折笠貴寛ほか	岩手大学農学部ほか
12	新技術導入に対する三陸沿岸営農者の考え方	松嶋卯月ほか	岩手大学農学部/三陸復興・地域創生推進機構
13	クラウド制御型養液土耕自動化支援装置の開発	喜多英司ほか	株式会社ルートレック・ネットワークスほか
14	三陸沿岸のブランド野菜生産に向けて	岡田益己ほか	岩手大学農学部/三陸復興・地域創生推進機構
15	養液土耕栽培によるハウスの高度不耕起輪作	小沢 聖ほか	明治大学農場ほか
16	地域貢献活動グループ FACE が高田のまちづくりに立ち上がる	FACE 会員	FACE（市内有志中学生の団体）
17	りくぜんたかた次世代応援団の活動と展望	山本健太	一般社団法人 SAVE TAKATA
18	盆踊りの復活のプロセス -地域への愛着と誇りに着目して-	渡邊聖人ほか	富士通株式会社ほか
19	「どこでもドア」としての陸前高田グローバルキャンパス	五味壮平	岩手大学人文社会科学部ほか

16:10-17:30 取組発表（市内団体等の活動）@モンティ・ホール（案内図）

発表タイトル	氏名	所属
りくぜんたかた次世代応援団の活動と展望	山本健太	一般社団法人 SAVE TAKATA
盆踊りの復活のプロセス ー地域への愛着と誇りに着目してー	渡邊聖人ほか	富士通株式会社ほか
陸前高田市適応支援教室「ジャンプスクール」の現状と課題	八木孝憲ほか	陸前高田市教育委員会
陸前高田市民泊修学旅行事業から生まれた無限の相乗効果	古谷恵一ほか	一般社団法人マルゴト陸前高田ほか

16:10-17:10 取組発表（教育・研究活動）@ワークショップルーム（案内図）

発表タイトル	氏名	所属
関西・メキシコ・ベトナムの学生が陸前高田の魅力を発見・発信する eJIP.jp	長谷川 伸	関西大学商学部
災害公営住宅における総参加型のコミュニティ形成	船戸義和	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構
居住7年目を迎えた陸前高田の仮設住宅における被災者の暮らし	宮城 孝	陸前高田地域再生支援研究プロジェクト研究代表/法政大学

発表スケジュール【4日】

9:00-12:00

気仙地区中高生と大学生によるジャムセッション「陸前高田そして気仙の未来を語る」
@モンティ・ホール(案内図)

前半：気仙地区の高校生、陸前高田市内の中学生、陸前高田市内で活動する大学生等
による取組発表

発表者：高校生（高田、大船渡、大船渡東、住田の各高校）

中学生（第一、気仙、高田東の各中学校及び FACE（市内有志団体））

大学生（若興人の家、岩手大学等）

後半：参加者によるグループディスカッション（テーマ別の分科会）

13:15-14:15 取組発表（教育活動）@モンティ・ホール(案内図)

発表タイトル	氏名	所属
三陸復興の地域課題についてのスタディツアー 陸前高田市をフィールドに	藤室玲治	東北大学高度教養教育・学生支援機構
九州の地で防災・減災を学ぶ	間間 理	九州産業大学経営学部
アバッセ・プロジェクト：学生による専門店・図書館の取材と情報発信	井上博夫	岩手大学 COC 推進室

13:15-14:35

パネルディスカッション「三陸の園芸振興に向けて」@ワークショップルーム(案内図)

パネリスト：佐々木輝昭・村上勝義・松田俊一(陸前高田市内の園芸農家)

小沢 聖(明治大学農学部)

佐藤和憲(岩手大学農学部)

喜多英司(株ルートレック・ネットワークス)

コーディネーター：岡田益己(岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 三陸復興部門 園芸振興班)

14:45-15:45 取組発表（市内団体等の活動・学生発表）@モンティ・ホール(案内図)

発表タイトル	氏名	所属
子ども×大学生 in 陸前高田	鈴木優里	東北大学陸前高田応援サークルほか
地域に/を学ぶ子どもの可能性 -環境フィールドワークを深める哲学対話の実践を通して-	皆川朋生ほか	立教大学大学院文学研究科ほか
青山学院大学ボランティアセンターRoute 陸前高田プログラム	柳田泰樹ほか	青山学院大学ボランティアセンターRoute

